

道の駅の魅力をさらに高め、鹿部のファンを増やし、温泉観光協会はもとより、町民や各事業所と連携強化を図り、交流人口の増による波及効果を生み出し、観光関連事業者をはじめ商工業全体の活性化を促して参ります。

また、多様なニーズに対

応した観光情報の発信についても、関係機関との連携を強化し「海と温泉のまつり」をはじめとする町内イベントの開催や、周辺市町と一体となった道内外でのプロモーションのほか、様々な情報媒体の活用により食や体験、景観などまちの旬な魅力を広く発信して参ります。

また、持続可能な地域づくりの推進については、令和5年度も産業連携ビジョンに基づき、A級グルメ構想理念の醸成を図り、広く産業の活性化に寄与して参ります。

町内の各公園の整備については、それぞれの魅力を活かせるよう、各公園のコンセプトに基づきながら、維持管理等を計画的に進めて参ります。

移住・定住対策の推進

次に、移住・定住対策の推進について申し上げます。

本町の人口は少子高齢化により減少が加速化しており、令和2年の国勢調査で3,000人台となり、令和4年4月1日付けで過疎市町村に指定されたところでありまして、人口減少克服に向けた取り組みは喫緊の課題であり、更なる「移住の促進」や「定住のための施策」は必要不可欠なものとなっております。

このことから、令和5年度から新たな体制整備の検討に入る他、空き家改修等支援制度を創設し、また、

子育て負担ゼロへの挑戦（子ども未来きらきらプラン）など、様々な施策と連動させながら移住・定住の強化、推進に取り組んで参ります。

地域公共交通対策

次に、地域公共交通について申し上げます。

本町の地域公共交通は、令和2年度に策定した「鹿部町地域公共交通網形成計画」に基づき、「しかバス」の運行とバス運行の空白地域の拡大、本別地区の一部において、デマンドバスの運行を開始しております。

しかバスについては、従来の路線バスと比較し、利用者が増えているものの、デマンドバスについては、利用者が少ない状況であります。

しかしながら、高齢化率の上昇や核家族化の進展に

より、交通弱者の増加が予想される中、本町で安心して住み続けられるための移動手段の確保に向けて、令和5年度、町内すべての交通を含めた新たな「地域公共交通計画」を策定し、持続可能な生活路線の確保に努めて参ります。

また、北海道新幹線「新函館北斗駅札幌間」の開業に伴う、JR函館本線の並行在来線について、第三セクターによる鉄道運行の検討やバス運行に関する課題の整理を進めているところでありまして、経営分離後の方針についてまとまっていない状況にあります。

引き続き、沿線自治体で引き続き、沿線自治体で構成する対策協議会において様々な角度から検討を進めて参ります。

子育て支援の充実

次に、子ども・子育て支

援について申し上げます。

子育て支援については、「第2期鹿部町子ども・子育て支援事業計画」に基づき進めて参ります。

令和5年度については、子育て世帯の負担軽減を図るため、新たに中学校・高校卒業時に卒業祝い金を給付する「新生活応援給付事業」、高校在学中の通学・下宿等に関する経費を支援する「高校生応援給付事業」を展開して参ります。

母子保健事業については、町独自で実施しております不妊治療費の助成事業を継続実施することとし、不妊治療を受けている方の経済的負担を軽減し、安心して治療を受けることができるよう支援して参ります。

また、母子保健に関するデジタル化に向けて、子育て支援アプリを導入し、子育て世代に必要な情報が必要なタイミングで手元に届くようプッシュ型の案内配